

## 唯一無二の組織力で 新たな事業領域への進出を目指す



### Profile

まえだ ふみお  
1965年11月30日生まれ。  
大阪府出身。立命館大学経済学部卒。

1988年4月	日本ハム株式会社入社 輸入ボーク部(福岡)に配属
2013年4月	執行役員に就任、国内食肉事業部長
2017年4月	加工事業本部 ハム・ソーセージ事業部長
2020年6月	取締役常務執行役員 経営企画本部長、 中央研究所担当
2022年4月	取締役常務執行役員 加工事業本部長
2023年4月	取締役常務執行役員 食肉事業本部長
2024年4月	取締役専務執行役員 食肉事業本部長
2025年4月	取締役副社長 副社長執行役員
2026年4月	代表取締役社長に就任

### オフの過ごし方は?

休暇が取れる時は家族との旅行。週末の散歩などです。散歩は長い時は2時間、定点観測を行うことが息抜きになっております。大学野球の観戦も好きで、大会を毎年楽しみにしています。



### ニッポンハムグループの強みと感情のつながり

当社グループはシャウエッセンを筆頭に看板となるブランドを複数持ち、全国隅々に販売網を展開しています。食肉事業においても生産から販売まで自社で一貫して商品を生み出すことができる会社です。併せて北海道日本ハムファイターズは従業員の誇りと一体感を醸成し、当社の保有するポールパークは北海道の皆様をはじめ多くのステークホルダーに愛されるコンテンツとなっており、日本ハムリシャウエッセン、ファイターズという確固としたネームバリューがあります。

私は、この唯一無二の組織能力を幾重にも掛け合わせ、もっと大きく

### 企業理念「食べる喜び」に寄せる思い

強くすることがたいへん重要と考えております。

当社は企業理念に「食べる喜び」を掲げております。誰も食事をする時、例えば気の置けない仲間、家族と食事をする時は形容し難い喜びを感じることでしよう。

企業理念にはこの食べる喜びの追求に加え、「社会に貢献する」ともありますが、既に当社は食のインフラ企業と呼べるほど、たいへん多くの加工食品、食肉を国民の皆様にご利用いただいております。また、今年2月、当社は食物アレルギー対応商品の開発・販売により、消費者志向経営優良事例表彰にて内閣府特命

### 今後、トップとして成し遂げたいことは?

担当大臣表彰を受けました。これからも幅広い人々に配慮し、安全・安心で安定した供給を行い、食卓の食べる喜びを守っていきます。

併せて企業理念には、従業員が仕事を通じて幸せと生き甲斐を求める場を実現することが定められております。「食べる喜び」を通じた社会貢献と、従業員の夢や自己実現を達成する企業理念であると、改めて感じております。

今期、当社は過去最高益を達成しました。それを越えていくため、さらなる事業規模の拡大、投資家の皆様を求める経営指標をしっかりと達成していきたいと考えております。

また、トップとして従業員が夢を持って業務遂行できるよう努めてまいります。実際に「現場」で「現物」を観察し、「現実」を認識した上で問題解決を図るという考え方を「三現主義」と言いますが、私は間違いも成功も全て現場にあると考えています。現場の従業員一人ひとりが挑戦できる環境を整え、新たな事業領域への進出を目指していきます。



日本ハム株式会社 代表取締役社長

# 前田文男

日頃よりお引き立てをいただきまして、厚く御礼申し上げます。

この度、日本ハム株式会社の代表取締役社長に就任いたしました前田文男でございます。

ニッポンハムグループの組織力を掛け合わせ、新たな事業領域への進出を目指して全力で取り組んでまいりますので、今後とも変わらぬご支援のほど、よろしくごお願い申し上げます。

### これまでのキャリアから得られたご自身の強みを教えてください

私は入社後、食肉部門で福岡に配属となり、その後札幌駐在を経て、出向、転勤のほか、加工事業やコーポレート部門への異動など、さまざまな経験をさせていただきました。先々では新しいことや事業に順応するだけでなく、どうすれば事業を発展させていけるかを常々考えてまいりました。

とにかくメンバーと対話し、課題がある時はそれが起きた背景や原因、対処から経過確認を一緒に行うことが重要であったと思います。

食肉事業では国内産の冷蔵豚肉を取り扱っている部署にいた頃のことから印象に残っています。当時、国産豚肉は季節や地域、販売する部位によっては格が劣後することもあり、販売がうまくいかないことが課題と

なっております。それらの課題を解決するため、メンバー全員で方向性を定め腹落ちさせ、個々の役割の重要性を理解し行動した結果、たいへん大きな成果を生み出したことは、私だけでなくメンバーそれぞれの自信につながりました。

ハム・ソーセージ部門へ異動になったのは入社して20年が経過した年でしたが、最初は作り方も当然製造工程も理解できておりませんでした。長年勤めていると新しいことや知らないものに直面する機会がどんどん少なくなりますので、一から物事を知ることができ、非常によい経験だったと感じております。特に加工事業では、各工場での「NQC活動」という、品質を向上し生産性を高めるための小集団による改善活動が展開されており、その取り組みには目を見張るものがあります。活動発表会には常に参加し、より多くの知識や知見を得ることができました。